# 資治通鑑　第 069 巻

令和 4 年 5 月 7 日

魏紀一　起上章困敦，盡玄黓攝提格，凡三年。

■魏、呉呉、蜀蜀、続国訳漢文大成．経子史部 第 4 巻 228p

## 世祖文皇帝上文帝元年（庚子，２２０年）

### 【曹操死して曹丕立つ】

■［曹操薨ず］春，正月，**武王**（曹操）は洛陽に至る。庚子（元嘉暦 2 月なら 36-13+1=２４日），薨ず。王は人を知り善く察し，偽りを以て眩じ難し。奇才を，識拔し微賤に拘らず，能に隨いて任使し，皆な其の用を獲る。敵と對陳するや，意思は安閒として，戰うを欲せざらんの如し、然れども機を決し勝ちに乘じるに至るに及びては，氣勢は盈溢す。勳勞の宜しく賞すべきは，千金を吝まず。功無くして施を望むには，分豪（分毫）も與えず。法を用いるに峻急にして，犯す有れば必ず戮し，或いは之に對して流涕するも，然も終に赦す所無し。雅性節儉にして，(4-229p) 華麗を好まず。故に能く群雄を芟刈し，幾んど海內を平ぐ。

■［曹丕は魏王を継ぐ］是の時**太子**（曹丕）は鄴に在り，軍中は騷動す。群僚は秘して喪を發せざるを欲し，諫議大夫の**賈逵**は以為く、

「事は秘す可からず」

乃ち喪を發す。或は言う、

「宜しく諸城守を易（続により補充）え，悉く譙、沛の人（曹操の故郷の人）を用いるべし」

魏郡太守の廣陵の**徐宣**は厲聲して曰く、

「今者は遠近は一統し，人は節を效すを懷う，何ぞ必ずしも專ら譙、沛のみを任じ以て宿衛者之心を沮まん！」

乃ち止む。青州の兵（曹操が黄巾族を討って併合）は擅に鼓を擊ちて相い引き去る，衆人は以為く、

「宜しく之を禁止すべし，從わざる者は之を討たん。

**賈逵**は曰く、

「可からず。」

為に長檄を作り，所在に令して其の稟食を給せしむ。鄢陵侯の**彰**（曹操が漢中より兵を還す時に、代を定めて迎え、長安に留める）は長安より來たり赴き，**逵**に**先王**の璽綬の所在を問い，**逵**は正色して曰く、

「國に儲副有り，**先王**の璽綬は君侯の宜しく問う所に非ざる也。」

凶問は鄴に至り，**太子**は號哭して已まず。中庶子（六百石、侍中の如し）の**司馬孚**は諫めて曰く、

「**君王**は晏駕す，天下は**殿下**を恃みて命と為す。當に上は宗廟の為にし，下は萬國の為にすべし，奈何ぞ匹夫の孝に效わん也！」

**太子**は良く久しく乃ち止めて，曰く、

「卿の言は是也。」

時に群臣は初めて**王**の薨じるを聞き，相い聚りて哭し，復た行列無し。**孚**は聲を朝に厲まして曰く、

「今**君王**は世を違え，天下は震動す，當に早く嗣君を拜し，以て萬國を鎮めるべし，而るに但だ哭する邪！」

乃ち罷む。群臣は，禁衛を備え，喪事を治む。**孚**は，**懿**之弟也。群臣は以為く、

「**太子**の即位は，當に（漢帝の）詔命を須つべし。」
尚書の**陳矯**は曰く、
「**王**は外に薨じ，天下は惶懼す。**太子**は宜しく哀を割きて即位し，以て遠近之望を系ぐべし。且つ又た愛子（鄢陵侯の彰）は側に在り，彼此變を生ずれば，則ち社稷は危き也。」
即ち官を具え禮を備え，一日に皆辦ず。明くる旦，**王后**の令を以て，**太子**を策して王位に即かしめ，大赦す。**漢帝**は尋いで御史大夫の**華歆**を遣わして策詔を奉じて，**太子**に丞相の印、綬，魏王の璽、綬を授け，冀州牧を領せしむ。是に於いて**王后**を尊びて**王太后**と曰う。

■改元して延康とす。（魏の意志による漢の改元）
■二月，丁未（元嘉暦二月閏１日、暦一致）朔，之を食する有り。
■壬戌（58-43+1=１６日），太中大夫の**賈詡**を以て太尉と為し，御史大夫の**華歆**を相國と為し，大理の**王朗**を御史大夫と為す。
■丁卯（3+60-43+1=２１日），**武王**を高陵（鄴の西、河南省河北道臨漳県。西高穴２号墓は河南省安陽市安陽県安豊郷西高穴村、2009 年 12 月 27 日発見公表）に葬る。
■［**曹植の災難**］王弟の鄢陵侯の**彰**等は皆な國に就く。臨菑の臨國謁者の**灌均**は，指を希いて奏す、
「臨菑侯の植（曹植）は酒に醉いて悖慢にして，使者を劫脅す。」
**王**は**植**を貶して安鄉侯と為し，右刺奸掾（姦猾を督する官）の沛國の**丁儀**（4-230p）及び弟の黄門侍郎の**廙**並びに其の男口を誅す，皆な**植**之黨也。
■［**魚豢の嘆き**］**魚豢**は論じて曰く、諺に言う、
「貧しきは學ばずして儉なり，卑しきは學ばずして恭なり。」
人性の分は殊なるに非ざる也，勢い然ら使む耳。假え**太祖**をして**植**等を防遏するに疇昔に在ら令めば，此れ賢之心は，何に緣りてか窺望する有らん乎！彰之恨みを挾むも，尚ほ至る所無し。**植**に至りて者，豈に能く難を興こさんや！乃ち**楊修**をして倚注するを以て害に遇い，**丁儀**をして意を希うを以て族滅せられ令む，哀しい夫！

■［**人材登用**］初めて散騎常侍、侍郎各々四人を置く。其の宦人の官と為る者は諸署（左右中尚方、中黄、左右藏、左校甄官、奚官、黄門、掖庭、永巷、御府、鉗府、中藏府、内者等の署）の令に過ぎるを得ず。金策（金属の策に令を書したもの）を為り，之を石室に藏す。時に當に侍中、常侍を選ぶや，**王**の左右の舊人は主者に諷し，便ち就きて用い，餘人を調せざらんと欲す。**司馬孚**は曰く、
「今**嗣王**は新たに立ち，當に海内の英賢を進用すべし，如何ぞ際會に因りて，自ら相い薦舉せんと欲する邪！官が其の任を失えば，得る者も亦た貴ぶに足らざる也。」
遂に他に選ぶ。
■［**九品官人之法**］尚書の**陳群**は，天朝（漢朝）の選用は人才を盡くさざるを以て，乃ち九品官人之法を立てる。州郡は皆な中正を置き以て其の選を定め，州郡之賢にして識鑒有る者を擇びて之と為し，人物を區別し，其の高下を第（等級を定める）せしむ。

■夏，五月，戊寅（14-11+1=4 日），**漢帝**は**王**の祖（曹操の父曹嵩）の太尉を追尊して**太王**と曰い，夫人の**丁氏**を**太王后**と曰う。

■［蘇則は河西の乱を鎮圧］**王**は安定太守の**鄒岐**を以て涼州刺史と為し，西平の**麴演**は旁郡を結びて亂を作し以て**岐**を拒む。張掖の**張進**は太守の**杜通**を執り，酒泉の**黄華**は太守の**辛機**を受けず，皆な自ら太守を稱して以て**演**に應ず。武威の三種の胡は復た叛す。武威太守の**毋丘興**は急を金城太守、護羌校尉の扶風の**蘇則**に告げる，**則**は將に之を救わんとするも，郡人は皆な以て為す、

「賊勢は方に盛んなり，宜しく大軍を須つべし。」

時に將軍の**郝昭**、**魏平**は先に金城に屯す，詔を受けれども西に度る（金城とは武威・張掖・酒泉と河を隔てる）を得ず。**則**は乃ち郡中の大吏及び**昭**等を見て謀りて曰く、

「今賊は盛んなりと雖も，然れども皆な新たに合し，或は脅かされて從う有り，未だ必ずしも同心せず。釁に因りて之を擊てば，善惡は必ず離れ，離れ而して我に歸さん，我は增し而して彼か損せん矣。既に衆を益す之實を獲て，且つ氣を倍する之勢い有り，率いて以て進みて討てば，之を破るは必ず矣。若し大軍を待ち，日を曠（むな）しくして久しく彌（わた）れば，善人も歸する無く，必ず惡に合し，善惡は就に合すれば，勢いは卒（にわか）に離れ難し。詔命有ると雖も，違い而して權（權宜、臨機の処置）に合えば，**(4-231p)**之を專らにするも可也。」

**昭**等は之に從い，乃ち兵を發して武威を救い，其の三種の胡を降し，**毋丘興**と**張進**を張掖に擊つ。**麴演**は之を聞き，步騎三千を將いて**則**を迎え，辭して、

「來りて軍を助く」

と、實は變を為さんと欲し，**則**は誘い而して之を斬り，出でて以て軍を徇え，其の黨は皆な散り走る。**則**は遂に諸軍と張掖を圍み，之を破り，**進**を斬る。**黄華**は懼れ，降を乞い，河西は平ぐ。

■［敦煌の張恭の大活躍］初め，敦煌太守の**馬艾**は官に卒す，郡人は功曹の**張恭**を推して長史事を行わしむ。**恭**は其の子の**就**を遣わして朝廷に詣り太守を請わしむ。會々**黄華**、**張進**は叛し，敦煌と勢いを並せんと欲し，**就**を執り，劫すに白刃を以てす。**就**は終に回さず，私に**恭**に疏を與えて曰く、

「大人は敦煌を率厲し，忠義は顯然たり，豈に**就**が困厄之中に在るを以て而して之に替える哉！今（×令、続による）大軍は至るに垂々とする，但だ當に兵を促して以て之を掎とするべき耳。願はくは下流之愛（下等な父子の愛、君臣の義にもとること）を以て，**就**をして黄壤（黄泉）に恨み有ら使めざらんこと也。」

**恭**は即ち兵を引いて酒泉を攻め，別に鐵騎二百及び官屬を遣わし，酒泉の北塞に緣り，東して太守の**尹奉**を迎えしむ。**黄華**は**張進**を救わんと欲すれども，而して西に**恭**の兵を顧み，其の後を擊つを恐れ，故に往くを得ず而して降る。**就**は卒に平安に，**奉**は郡に之くを得たり，詔して**恭**に爵の關內侯を賜う。

■六月，庚午（6+60-41+1=２６日），**王**は軍を引いて南巡す。

■呉秋，七月，**孫權**は遣使して奉獻す。

## 【孟達投降と劉封処分】

■蜀［孟達投降と、劉曄の危険指摘］蜀の將軍の**孟達**は上庸に屯し，副軍中郎將の**劉封**と協せず。**封**は之を侵陵し，**達**は部曲四千餘家を率いて來降す。**達**は容止才觀有り，**王**は甚だ之を器愛し，引いて與に輦を同じくし，**達**を以て散騎常侍、建武將軍と為し，平陽亭侯に封じる。房陵、上庸、西城の三郡を合わせて新城と為し，**達**を以て新城太守を領せしめ，委ねるに西南之任を以てす。行軍長史の**劉曄**は曰く、

「**達**は苟しくも得る之心有り，而して才を恃み術を好む，必ず恩に感じ義を懷（おも）う能わず。新城は**孫**、**劉**と接連す，若し變態有れば，國の為に患いを生ぜん。」

王は聽かず。征南將軍の**夏侯尚**、右將軍の**徐晃**を遣わして**達**と共に**劉封**を襲わしむ。上庸太守の**申耽**は**封**に叛きて來降し，**封**は破れ，走り成都に還る。

蜀［諸葛亮は劉封に死を賜う］初め，**封**は本は羅侯の**寇氏**之子なれ，**漢中王**は初めて荊州に至り，未だ繼嗣の有らざるを以て，之を養いて子と為す。**諸葛亮**は**封**の剛猛にして，易世之後に，終に制御し難きを慮り，漢中王に勸めて此の際に因りて之を除かしむ、遂に**封**に死を賜う。

■武都の氐王の**楊僕**は種人を率いて內附す。(4-232p)

■［譙の大宴会］甲午(30-10+1=２１日)，**王**は譙に次し，大いに六軍及び譙の父老を邑東に饗し，伎樂百戲を設け，吏民は壽を上り，日夕べに而して罷む。

■［三年之喪］**孫盛**は曰く、

「三年之喪は，**天子**より庶人に達す。故に三季（夏・殷・周の三代）之末，七雄（戰国の秦・趙・韓・魏・斉・楚・燕）之敝と雖も，猶ほ未だ衰斬を旬朔之間に廢し，麻杖を反哭之日に釋てる者有らざる也（戰国時代でも廢れ無かった）。**漢文**（15 巻文帝後七年にあり）に逮びては，古制を變易し，人道之紀は，一旦而して廢し，固に已に道は當年に薄く，風は百代に頹れる矣。**魏王**は既に漢制を追い，其の大禮を替え，莫重之哀しみ（これより重い哀しみは無い、親の喪）に處り而して饗宴之樂しみを設け，厥（夏書に曰く、典有り則有り、厥の子孫に貽す）之始めに居り而して王化之基を墮し，禪を受けるに至るに及び，顯かに二女を納れ（獻帝に禪讓するとき、魏王に冊詔して曰く、漢は堯の運を承けて、聖に田るに義有り、二女を降して魏に嬪たらしむと。堯が舜に二女を降嫁したる故事に倣う也），是を以て王の齡之遐なからず，世を卜する之期促がすを知る也。

■［豫州刺史の賈逵を模範とす］**王**は丞相の祭酒の**賈逵**を以て豫州刺史と為す。是の時天下は初めて定まり，刺史は多く郡を攝（總錄）する能わず。**逵**は曰く、

「州は本は六條の詔書を以て二千石以下を察す，故に其の狀は皆な嚴能鷹揚にして，督察之才有るを言い，安靜寬仁にして，愷悌之德有るを言わざる也。今長吏は法を慢り，盜賊は公行し，州は知り而して糾さず，天下復た何ぞ正を取らん乎！」

其の二千石以下，阿縱し法の如くならざる者は，皆な奏を舉げて之を免ず。外に軍旅を修め，內に民事を治め，陂田を興し，運渠を通じ，吏民は之を稱す。**王**は曰く、

「**逵**は真に刺史なり矣。」

天下に佈告し，當に豫州を以て法と為す。**逵**に爵の關內侯を賜わる。

■左中郎將の**李伏**、太史丞の**許芝**は表して言う、

「魏は當に漢に代わるべし，圖緯に見える，其の事は衆きこと甚し。」

群臣は因りて上表し**王**に天人之望に順うを勸めるも，**王**は許さず。

## 【曹丕は魏の皇帝即位】

■［曹丕は皇帝に即位］冬，十月，乙卯（51-39+1=１３日），**漢帝**は高廟に告祠し，行御史大夫の**張音**を使わして節を持し璽綬詔冊を奉じて，位を魏に禪る。**王**は三たび上書して辭讓し，乃ち壇を繁陽（河南省開封道臨潁県の西北、現・漯河市臨潁県）に為り，辛未(7+60-39+1=２９日)，壇に升りて璽綬を受け，**皇帝**に即位し，天地、岳瀆（五岳四瀆、山川をいう）を燎祭し，改元し，大赦す。

■［漢帝を山陽公とし優遇］十一月，癸酉（9-8+1=２日），**漢帝**を奉じて山陽（河內郡の県、濁鹿城に居る、河南

省河北道修武県の西北、現・焦作市修武県）公と為し，漢の正朔を行い，**天子**の禮樂を用いしめ、公の四子を封じて列侯と為す。**太王**を追尊して**太皇帝**と曰う。**武王**（曹操）を**武皇帝**と曰い，廟號を**太祖**とす。**王太后**を尊して**皇太后**と曰う。以漢の諸侯王を以て崇德侯と為し，列侯を關中侯と為す。群臣の封爵、增位は各々差有り。相國を改めて司徒と為し，御史大夫を司空と為す。**(4-233p) 山陽公**は二女を奉じて以て魏に嬪とす。

■［**魏の正朔**］**帝**は正朔を改めんと欲し，侍中の**辛毗**は曰く、

「**魏氏**は**舜**、**禹**之統に遵い，天に應じ民に順う。**湯**、**武**に至り，戰伐を以て天下を定め，乃ち正朔を改める。**孔子**は曰く、『夏之時を行う（論語衛靈公篇にあり、夏の時の曆法を用いる）』、《左氏傳》は曰く、『夏の數は天の正を得たりと為す』、何ぞ必ずしも相い反するを期せん！」

**帝**は善しとし而して之に從う。（この後遂に皆建寅を以て正と為す）時に群臣は並びて魏の德を頌し，多く前朝を抑損す。散騎常侍の**衛臻**は獨り禪授之義を明かにし，漢の美を稱揚す。**帝**は數々**臻**を目して曰く、

「天下之珍は，當に**山陽**と之を共にすべし。」

**帝**は**太后**の父、母を追封せんと欲し，尚書の**陳群**は奏して曰く、

「**陛下**は聖德を以て運に應じて命を受け，創業して制を革（あらた）め，當に永く後式（後世の方式）と為すべし。典籍之文を案じるに，婦人の土を分け爵を命じる之制無し。禮典に在りては，婦は夫の爵に因る。秦は古法に違い，**漢氏**は之に因り，**先王**之令典に非ざる也。」

**帝**は曰く、

「此の議は是也，其れ施行する勿かれ。」

仍って定制を著わし，之を臺閣（尚書の中の故事を藏する所）に藏める。

■十二月，初めて洛陽宮を營む。戊午（54-38+1=１７日），**帝**は洛陽に如く。

■［**敦煌の大珠は復た求めるや**］**帝**は侍中の**蘇則**に謂って曰く、

「前には酒泉、張掖を破り，西域は使いを通じ、敦煌は徑寸の大珠を獻じる，復た市を求めて益々得る可くや不（いな）や？」

**則**は對えて曰く、

「若し**陛下**が化を中國に洽（あまね）き，德は沙幕に流れれば，即ち求めずとも自ら至らん。求めて而して之を得るは，貴きに足らざる也。」

**帝**は嘿然とす。

■［**帝の失言訂正**］**帝**は東中郎將の**蔣濟**を召して散騎常侍と為す。時に詔有り征南將軍の**夏侯尚**に賜りて曰く、

「卿は腹心の重將なり，特に當に任使すべし，威を作し福を作し，人を殺し人を活かせ。」

**尚**は以て**濟**に示す。**濟**は至り，**帝**は問うに聞見する所を以てす，對えて曰く、

「未だ他の善有らず，但だ亡國之語を見る耳。」

**帝**は忿然として色を作し而して其の故を問う，**濟**は具に以て答え，因りて曰く、

「夫れ『威を作し福を作す』（尚書の洪範に曰く、臣は威を作し福を作す有る無かれ、臣にして威を作し福を作す有れば、其れ而の家に害あり、而の國に凶なり）は《書》之明誡なり。**天子**には戲言無し，古人の慎む所なり，惟（續は唯）だ**陛下**は之を察すべし！」

**帝**は即ち（使いを）遣わして追いて前詔を取らしむ。

■［辛毗の諫言に帝は自粛］**帝**は冀州（時に洛陽に營む）の士卒の家十萬戸を徙して河南を實たさんと欲するも，時に天は旱し，蝗ありて，民は饑え，群司は以て不可と為す，而るに**帝**の意は甚だ盛なりの。侍中の**辛毗**は朝臣と倶に見えんを求め，**帝**は其の諫めんと欲するを知り，色を作して以て之を待ち，皆な敢えて言うもの莫し。**毗**は曰く、

「**陛下**は士の家を徙さんと欲す，其の計は安くにか出るや？」

**帝**は曰く、

「**卿**は我が之を徙すに非なるを謂う邪？」

**毗**は曰く、

「誠に以て非と為す也。」

**帝**は曰く、

「吾は卿と議せざる也。」**(4-234p)**

**毗**は曰く、

「**陛下**は臣が不肖を以てせず，之を左右に置き，之を謀議之官に廁（まじ）える，安んぞ能く臣と議せざる邪！臣の言う所は私に非ざる也，乃ち社稷之慮也，安んぞ臣を怒るを得んや！」

**帝**は答えず，起ちて內に入る。**毗**は隨いて而して其の裾を引き，**帝**は遂に衣を奮いて還らず，良く久しく乃ち出でて，曰く、

「**佐治**（辛毗の字），卿は我を持すること何ぞ太だ急なる邪！」

**毗**は曰く、

「今徙せば，既に民心を失い，又た以て食わす無き也，故に臣は敢えて力爭せざるにあらず。」

**帝**は乃ち其の半ばを徙す。**帝**は嘗て出でて雉を射，群臣を顧みて曰く、

「雉を射るは樂しき哉！」

**毗**は對えて曰く、

「**陛下**に於いては甚だ樂しむも，群下に於いては甚だ苦し。」

**帝**は默然とし，後に遂に之が為に出ずること稀なり。

## 文帝二年（辛丑，２２１年）

■春，正月，議郎の**孔羨**を以て宗聖侯と為し，**孔子**の祀りを奉ぜしむ。

■三月，遼東太守の**公孫恭**（公孫度の次子、公孫康の後）に車騎將軍を加える。

■初めて五銖錢を復す。（漢の獻帝初平元年に董卓は五銖錢を壞す、これを復す）

### 【蜀の劉備も皇帝即位】

蜀［劉備は即位］蜀中は傳えて言う、

「**漢帝**は已に害に遇えり」

と，是に於いて**漢中王**（劉備）は喪を發し服を制し，謚して**孝愍皇帝**と曰う。群下は競いて符瑞を言い，漢中王に尊號を稱するを勸める。前部司馬の**費詩**は上疏して曰く、

「**殿下**は**曹操**父子が主に逼りて位を簒するを以て，故に乃ち萬里に羈旅し，士衆を糾合し，將に以て賊を討たんとす。今大敵に未だ克たざる而して先ず自ら立てば，恐らくは人心は疑惑せん。昔**高祖**（劉邦）は楚

と約し，先に秦を破る者は之に王たらんと。咸陽を屠り，**子嬰**を獲るに及びて，猶ほ推譲を懐く。況んや今**殿下**は未だ門庭を出ざるに，便ち自立せんと欲する邪！愚臣は誠に**殿下**の為に取らざる也。」

**王**は悦ばず，**詩**を左遷して部永昌従事（益州刺史の部従事として永昌を部す）と為す。**夏，四月**，丙午（42-36+1=７日），**漢中王**は**皇帝**に武擔（山の名、四川省西川美智成都県城内の西北隅）之南に於いて即位し，大赦し，改元して章武とす。**諸葛亮**を以て丞相と為し，**許靖**を司徒と為す。

■［司馬光の歴史評価基準］臣光は曰く、

「天の烝民を生ずるや，其の勢は自ら治める能わず，必ず相い與に君を戴きて以て之を治める。苟くも能く暴を禁じ害を除き以て其の生を保全し，善を賞し惡を罰して亂に至らざら使めれば，斯(ここ)に之を君と謂う可し矣。是を以て三代之前，海内の諸侯は，何ぞ啻(ただ)に萬國のみならん，民人、社稷有る者は，**(4-235p)**通じて之を君と謂う。萬國を合わせ而して之に君たり，法度を立て，號令を班(わか)ち，而して天下敢えて違う者莫きは，乃ち之を王と謂う。王の德が既に衰え，強大之國が能く諸侯を帥い以て**天子**を尊ぶ者は，則ち之を霸と謂う。故に古より天下に道無く，諸侯は力爭し，或は曠世王無き者，固より亦た多し矣。秦は焚書坑儒し，漢は興こり，學者は始めて五德（木火土金水）生、勝を推し，秦を以て閏位と為し，木火之間に在り，霸にして而して王ならす，是に於いて正閏之論は興る矣。漢室の顛覆するに及び，三國は鼎跱す。**晉氏**は馭を失い，五胡は雲擾す。宋、魏以降は，南北は分治し，各々國史有り，互いに相い排黜し，南は北を謂って索虜（北人の蔑称）と為し，北は南を島夷（南人の蔑称）と為す。朱氏（朱全忠が五代の始めに梁を立てる）は唐に代わり，四方は幅裂し，**朱邪**（五代の唐の荘宗）は汴に入れば，之を窮、新に比し，運歴年紀は，皆な棄てて而して數えず，此れ皆な私己之偏辭にして，大公之通論に非ざる也。臣愚は誠に以て前代之正閏を識るに足らざり，竊かに以為えらく苟くも九州をして合して一統と為さ使むる能わず，皆な**天子**之名有りとも，而るに其の實無き者也。華（夷、続は無し）夏仁暴，大小強弱は，或は時に同じからずと雖も，要は皆な古之列國と無異なる無し，豈に獨り一國を尊奨して之を正統と謂い，而して其の餘を皆な僭偽と為すを得る哉！若し上より相い授受する者を以て正と為す邪，則ち**陳氏**（南朝の陳）は何の受ける所や？**拓跋氏**は何の受ける所や？若し中夏に居る者を以て正と為す邪，則ち**劉、石、慕容、苻、姚、赫連**の得る所の之土は，皆な五帝、三王之舊都也。若し道德有る者を以て正と為す邪，則ち蕞爾（小なる貌）之國にも，必ず令主有り，三代之季にも，豈に僻王無からん！是れ以て正閏之論，古より今に及び，未だ能く其の義に通じ，確然として人をして移奪す可からざら使むる者有らざる也。臣が今述べる所，止だに國家之興衰を敘し，生民之休戚を著し，觀る者をして自ら其の善惡得失を擇び，以て勸戒と為さ使めんと欲すのみ，《春秋》の褒貶之法を立て，亂世を抜き（続は撥）諸を正に反さんとするが若きに非ざる也。正閏之際は，敢て知る所に非ず，但だ其の功業之實に據り而して之を言う。周、秦、漢、晉、隋、唐は，皆な嘗て九州を混壹し，祚を後に傳え，子孫は微弱にして播遷すると雖も，猶ほ祖宗之業を承け，紹復之望有り，四方の之と衡を爭う者は，皆な其の故の臣也，故に全く**天子**之制を用いて以て之に臨む。**(4-236p)**其の餘は地丑し德は齊(ひと)しく，能く相壹する莫く，名號は異ならず，本より君臣に非ざる者は，皆な列國之制を以て之を處し，彼此鈞敵し，抑揚する所無し，庶幾わくは事實を誣いず，至公に近からん。然るに天下離析之際は，歲、時、月、日は以て事之先後を識(しる)す無かる可からず。漢は魏に傳え而して晉は之を受け，晉は宋に傳え以て陳に至り而して隋は之を取り，唐は梁に傳え以て周に至り而して大宋は之を承けるに據る，故に魏、〔晉〕、宋、齊、梁、陳、後梁、後唐、後晉、後漢、後周の年號を取り，以て諸國之事を紀せざるを得ず，此を尊び而して彼を卑しみ，正閏之辨有るに非ざる也。**昭烈**之漢に於けるは，中山の**靖王**之後と云うと雖

も，而も族屬は疏遠にして，其の世數名位を紀する能わず，亦た猶ほ宋の**高祖**が楚の**元王**の後と稱し，南唐の**烈祖**が吳王の**恪**の後と稱するがごとく，是非は辨じ難し，故に敢て**光武**及び晉の**元帝**を以て比と為し，**漢氏**之遺統を紹ぐを得使めざる也。
呉**孫權**は公安より徙りて鄂に都し，更めて鄂を名づけて武昌と曰う。

蜀五月，辛巳（17-5+1=１３日），**漢主**は夫人の**吳氏**を立てて**皇后**と為す。**后**は，偏將軍の**懿**之妹，故の**劉璋**の兄の**瑁**之妻也。子の**禪**を立てて**皇太子**と為す。車騎將軍の**張飛**の女を娶りて**太子**の妃と為す。

■［曹丕は怨言で甄氏に死を賜う］**太祖**之鄴に入る也（64 巻漢の建安 10 年），**帝**は五官中郎將と為り，**袁熙**の妻の中山の**甄氏**を見、美しく而して之を悅ぶ，**太祖**は之が為に焉を聘し，子の**叡**を生む。**皇帝**に即位するに及び，安平の**郭貴嬪**に寵有り，**甄夫人**は鄴に留まりて見えるを得ず。意を失い，怨言有り。**郭貴嬪**は之を譖り，**帝**は大いに怒る。六月，丁卯（3+60-35+1=２９日），遣使して夫人に死を賜う。
■**帝**は宗廟の鄴（魏王になりて置く）に在るを以て，**太祖**を洛陽の建始殿（建国の初めとして置く）に祀り，家人の禮の如し。（胡三省曰く、父は士たり、子は天子たれば、祭るに天子を以てす、安んぞ家人の禮を用いる者有らんやと）

■戊辰（4+60-35+1=３０日）晦，日の之を食する有り。有司は奏す、
「太尉を免じよ」
と、詔して曰く、
「災異之作るは，以て元首を譴（せ）めるなり，而るに過ちを股肱（の臣）に歸す，豈に**禹**、**湯**の己を罪する之義（左傳に、臧文仲曰く、禹湯は己を罪し、其の興るや勃焉たりと）を乎！其れ百官に令して各々厥の職を虔ましめよ。後に天地之眚（わざわい）有りとも，復た三公を劾する勿かれ。」
蜀**漢主**は其の子の**永**を立てて魯王と為し，**理**を梁王と為す。

## 【劉備は呉に侵攻】

蜀［劉備は関羽の敵討ちを優先］**漢主**は**關羽**之没するを恥じ，將に**孫權**を擊たんとす。翊軍將軍の**趙雲**は曰く、
「國賊は，**曹操**にして，**孫權**に非ざる也。若し先に魏を滅ぼせば，則ち**權**は自ら服さん。今**操**の身は斃れると雖も，子の**丕**は簒盜し，當に衆心に因り，早く關中を圖り，河、渭の上流に居り以て凶逆を討てば，關東の義士は必ず糧を裹（つつ）み馬を策し以て王師を迎えん。應に魏を置きて，先に吳と戰うべからず。兵勢一交すれば，**(4-237p)** 卒（いわか）に解くを得ざらん，策之上に非ざる也。」（この言は、前後をよく考えよとの意味）
群臣の諫める者は甚だ衆く，**漢主**は皆な聽かず。廣漢の處士の**秦宓**は陳ず、
「天の時は必ず利無し」
と，坐して獄に下し幽閉せられ，然る後に貸（ゆる）されて出る。
蜀［張飛は部下に殺される］初め，車騎將軍の**張飛**，雄壯にして威猛は**關羽**に亞す。**羽**は善く卒伍を待ち而して士大夫に驕（おご）り，**飛**は君子を愛禮し而して軍人を恤（あわれ）まず。**漢主**は常に**飛**を戒めて曰く、
「卿は刑殺するに既に差に過ぎ（行きすぎ），又た日に健兒を鞭撻（鞭打つ）し而して左右に在ら令む，此れ禍いを取る之道也。」
**飛**は猶ほ悛（あらた）めず。**漢主**は將に**孫權**を伐たんとし，**飛**は當に兵萬人を率いて閬中（巴西郡の県、四川省嘉陵道閬中

県、現・南充市閬中市）より江州に會すべし。發するに臨み，其の帳下の將の**張達**、**范彊**は**飛**を殺し，其の首を以て流れに順いて**孫權**に奔る。**漢主**は**飛**の營の都督の表有るを聞き，曰く

「噫，**飛**は死せる矣！」（表はまさに張飛自身から発するべきを、都督から上したので、張飛の死を悟った）

■**陳壽**は評して曰く、

「**關羽**、**張飛**は皆な萬人之敵と稱し，世の虎臣為り。**羽**は**曹公**に報效し（63 巻獻帝建安五年），**飛**は義として**嚴顏**を釋す（67 巻建安 19 年）は，並びて國士之風有り。然るに**羽**は剛に而して自ら矜り，**飛**は暴に而して恩無し，短を以て敗を取る，理數之常也。」

蜀[孫堅の劉備への書簡]秋，七月，**漢主**は自ら諸軍を率いて**孫權**を擊ち，**權**は遣使して和を漢に求める。南郡太守の**諸葛瑾**は**漢主**に箋を遺りて曰く、

「**陛下**は以うに**關羽**之親は，**先帝**（蜀人は獻帝が既に死すと思っている）に何如？荊州の大小は，海內に孰與（いずれ）ぞ？俱に應ら仇疾するべきも，誰か當に先後とすべきや？若し此の數を審かにせんは，掌を反すより易し矣。」

**漢主**は聽かず。時に或は、

「**瑾**は別に親人を遣わして**漢主**と相い聞く」

と言う者あり，**權**は曰く、

「孤は**子瑜**と，死生易わらざる之誓有り，**子瑜**之孤に負かざるは，猶ほ孤之**子瑜**に負かざるがごとき也。」

然れども謗言は外に流聞し，**陸遜**は**瑾**が必ず此れ無きを表明し，

「宜しく以て其の意を散ずる有るべし」。

**權**は報じて曰く、

「**子瑜**は孤と事に從うこと積年，恩は骨肉の如く，深く相い明究す。其の人と為りは，道に非ざれば行らず，義に非ざれば言わず。**玄德**は昔**孔明**を遣わして吳に至らしめ，孤は嘗て**子瑜**に語りて曰く『卿は**孔明**と同產にして，且ち弟が兄に隨うは，義に於いて順と為す，何を以て**孔明**を留めざるや？**孔明**が若し留まりて卿に從う者，孤は當に書を以て**玄德**を解すべし，意うに自ら人に隨わん耳。』**子瑜**は孤に答えて言う、『弟の**亮**は已に人を人に失う。質を委ね分を定め，義に二心無し。弟之留まざるは，猶ほ**瑾**之往かざるごとき也。』其の言は神明を貫くに足る，今豈に當に此れ有るべき乎！前に妄語の文疏を得，即ち封じて**子瑜**に示す，**(4-238p)** 手筆を並せて之に與える。孤は**子瑜**と神交と謂う可し，外言の間する所に非ず，卿の意の至るを知る，輒ち（卿の）來表を封じ以て**子瑜**に示し，卿の意を知ら使む。」

蜀［蜀と呉の激突］**漢主**は將軍の**吳班**、**馮習**を遣わして攻めて**權**の將の**李異**、**劉阿**等を巫に破り，軍（続は兵）を秭歸に進め，兵は四萬餘人，武陵の蠻夷は皆な遣使して往きて兵を請う。**權**は鎮西將軍の**陸遜**を以て大都督（称号ここから始まる）と為し、節を假し，將軍の**朱然**、**潘璋**、**宋謙**、**韓當**、**徐盛**、**鮮于丹**、**孫桓**等五萬人を督して之を拒がしむ。

■［曹植は鄄城侯に封じる］皇弟の鄢陵侯の**彰**、宛侯の**據**、魯陽侯の**宇**、譙侯の**林**、贊侯の**兗**、襄邑侯の**峻**、弘農侯の**幹**、壽春侯の**彪**、歷城侯の**徽**、平輿侯の**茂**は皆な爵を進めて公と為す。安鄉侯の**植**（曹植）は改めて鄄城侯に封じる（曹植は曹丕のライバルとみられ、一度忌まれて侯を貶せられ、また復活）。

■陵雲臺（洛陽城中の金市の東に在り）を築く。

■［魏の劉備出兵の評価］初め，**帝**は群臣に詔して**劉備**が當に**關羽**の為に出でて**孫權**に報いるや否やを料ら令め，衆議は咸な云く、

「蜀は小國なる耳，名將は唯だ**羽**のみ。**羽**死して軍破れ，國內は憂懼す，復た出ずる緣無し。」
侍中の**劉曄**は獨り曰う、
「蜀は狹弱と雖も，而るに**備**（劉備）之謀は威武を以て自ら強くせんと欲し，勢いは必ず衆を用いて以て餘り有るを示さん。且つ**關羽**は**備**と，義は君臣為れども，恩は猶ほ父子のごとし。**羽**死して，為に軍を興し敵に報いる能わざれば，終始之分に於いて足らず矣。」

■呉［孫権は魏に臣従の真意］八月，**孫權**は遣使して臣を稱し，辭を卑しくし章を奉じ，並せて**于禁**等（孫権が魏の南部を攻めて于禁を捕虜にするは前巻獻帝建安 24 年にあり）を送りて還す。朝臣は皆な賀す，**劉曄**は獨り曰く、
「**權**は故無く降を求める，必ず內に急有り。**權**は前に**關羽**を襲い殺し，**劉備**は必ず大いに師を興して之を伐つ。外に強寇有りて，衆心は安ぜず，又た中國（魏）の往きて其の釁に乘るを恐れ，故に地を委ね降を求め，一に以て中國之兵を卻け，二に中國之援を假り，以て其の衆を強くし而して敵人を疑はせんとする耳。天下は三分し，中國は十のうち其の八を有す。吳（揚州）、蜀（益州）は各々一州を保ち，山を阻み水に依り，急有れば相い救うは，此れ小國之利也。今還って自ら相い攻めるは，天が之を亡ぼす也，宜しく大いに師を興し，逕に江を渡りて之を襲うべし。蜀は其の外を攻め，我は其の內を襲えば，吳之亡びるは旬月（or 旬日）を出ず矣。吳が亡びれば則ち蜀は孤となり，若し吳之半ばを割きて以て蜀に與うるとも，蜀は固より久しく存する能わず，況んや蜀は其の外を得，我は其の內を得んを乎！」
**帝**は曰く、
「人が臣を稱して降る而るに之を伐つは，天下の來たらんと欲する者の心を疑わせん，且く吳の降を受け而して蜀之後を襲わんに若かざる也。」
對えて曰く、
「蜀は遠く吳は近し，又た中國が之を伐つを聞けば，便ち軍を還し，止める能わざらん也。今**備**は已に怒り，兵を興して呉を擊つ，**(4-239p)** 我が吳を伐つを聞けば，吳が必ず亡びるを知り，將に喜び而して進み我と與に爭いて吳の地を割かん，必ず計を改め怒りを抑えて吳を救はざらん也。」
**帝**は聽かず，遂に吳の降を受ける。
■［曹丕は于禁を辱める］**于禁**は鬚髮は皓白にして，形容は憔悴し，**帝**に見えて，泣涕し頓首す。**帝**は慰喻し**荀林父**（春秋の晉の大夫は楚と戰い敗れ、晉の景公は復たこれを用い以て赤狄を取る）、**孟明視**（秦の大夫、晉の捕虜となり、秦の穆公は復た用いて西戎に覇たり）の故事を以て，安遠將軍に拜し，（于禁をして）北に鄴に詣りて高陵に謁せ令む。**帝**は豫め陵屋に於いて**關羽**の戰い克ち、**龐德**の憤怒し、**禁**の降服之狀を畫か使む。**禁**は見て，慚恚し病を發して死す。
■臣**光**は曰く、「**于禁**は數萬の衆を將し，敗れて死する能わず，生きて敵に降り，既に而して復歸す。**文帝**は之を廢するも可也，之を殺すも可也，乃ち陵屋に畫きて以て之を辱めるは，斯れ君たらずと為す矣！」

■［劉曄は孫権を王にするに反対］丁巳（53-34+1=２０日），太常の**邢貞**を遣わして策を奉じて即ち**孫權**を拜して**吳王**と為し，九錫を加えしむ。**劉曄**は曰く、
「可からず。**先帝**は征して天下を伐ち，十に其の八を兼ね，威は海內に震う。**陛下**は禪を受け真に即き，德は天地に合し，聲は四遠に曁ぶ。**權**は雄才有りと雖も，故に漢の票騎帆軍、南昌侯（曹操は漢時代に任じる、前巻建安 24 年）なる耳，官は輕く勢いは卑し。況んや（続による）士民は中國を畏れるの心有り，（孫権は士民を）

強迫して與に謀る所を成す可からざる也。已むを得ずして其の降を受ければ，其の將軍號を進め，十萬戶侯に封じる可し，即ち以て王と為す可からざる也。夫れ王位は**天子**を去ること一階耳，其の禮秩服御（漢は景武以後藩王を裁削し、京師と同じくせず）は相い亂れる也。彼は直(ただ)に侯為るのみ，江南の士民は未だ君臣之分有らず。我が其の偽わり降るを信じ，就きて之を封殖（封土を増し養って繁茂させる）し，其の位號を崇び，其の君臣を定めれば，是れ虎に翼を傅(つ)くると為す也。**權**は既に王位を受け，蜀の兵を卻ける之後に，外は禮を盡して以て中國に事え，其の國內をして皆な聞か使め，內に無禮を為し以て**陛下**を怒らせん。**陛下**は赫然として怒りを發し，兵を興して之を討てば，（孫權は）乃ち徐(おもむろ)に其の民に告げて曰く、『我は身を委ねて中國に事え，珍貨重寶を愛(おし)まず，時に隨いて貢獻し，敢えて臣の禮を失わず，而るに故無くして我を伐ち，必ず我が國家を殘い，我が人民を俘にし以（認は×、続による）て僕妾と為さんと欲す。』吳の民は其の言を信ぜざるに緣無し也。其の言を信じて而して感怒し，上下は同心し，戰いて十倍を加えん矣。」

又た聽さず。諸將は吳の內附するを以て，意は皆な縱緩す，獨り征南大將軍の**夏侯尚**は益々攻守之備えを修める。山陽の**曹偉**は，素より才名有り，吳の稱籓するを聞き，白衣を以て**吳王**と書を交えて賂を求め，以て京師に交結せんと欲し，**帝**は聞き而して之を誅す。

吳吳は又た武昌に城きづく。（石頭に築城し、また武昌に築城するは、吳が江を保つの意志なり）

■<u>［楊彪は大尉を辞す］</u>初め，**帝**は**楊彪**を以て太尉と為さんと欲し，**彪**は辭して曰く、

「嘗て漢朝の三公と為り，**(4-240p)** 世の衰亂に値(あ)い，尺寸之益を立てる能わず，若し復た魏の臣と為れば，國之選に於いて，亦た榮と為さざる也。」

**帝**は乃ち止む。冬，十月，己亥（35-33+1=３日）公卿は朔旦に朝す，並びに**彪**を引き，待するに客禮を以てす。延年椹杖（続による、椹は木の名、これで杖を作る。人をして年を延べ壽を益さしむ）、馮几を賜い，布單衣を著、皮弁以て見え使む。光祿大夫に拜し，秩は中二千石。朝見するに，位は三公に次ぐ。又た門に行馬（駒つなぎ）を施さ令め，吏卒を置き，以て之を優崇す。年八十四に而して卒す。

■穀の貴きを以て，五銖錢を罷む。（先に復活するも幾ばくも無くしてやむ）

■<u>［涼州の盧水胡の反乱］</u>涼州の盧水胡の**治元多**等は反し，河西は大いに擾(みだ)れる。**帝**は**鄒岐**を召して還らしめ，京兆尹の**張既**を以て涼州刺史と為し，護軍の**夏侯儒**、將軍の**費曜**等を遣わして其の後ろに繼がしむ。胡七千餘騎は逆えて**既**を鸛陰口（鸛陰の河口、武威郡に属す、甘肅省蘭山道靖遠県の北、現・白銀市靖遠県烏蘭鎮）に拒み，**既**は揚聲す、

「軍は鸛陰よりす」

と，乃ち潛に且次（武威郡の県、甘肅省甘涼道古浪県の北、現・武威市古浪県）由り武威に出る。胡は以て神と為し，引いて顯美（武威郡の県、甘肅省甘涼道永昌県の東、現・金昌市永昌県の東、武威の西）に還る。**既**は已に武威に據り，**曜**は乃ち至り，**儒**等は猶ほ未だ達せず。既は將士を勞わり賜い，軍を進めて胡を擊たんと欲し，諸將は皆な曰く、

「士卒は疲れ倦む，虜衆は氣銳なり，與に鋒を爭い難し。」

**既**は曰く、

「今軍に見糧無く，當に敵に因りて資と為すべし。若し虜が（我が）兵合うを見れば，退きて深山に依らん，之を追えば則ち道は險にして窮餓し，兵は還りて則ち出でて候(うかが)いて寇鈔す，此の如くならば，兵は解くを得ず，所謂一日敵を縱てば，患いは數世に在り（左傳にあり）也。」

遂に前みて顯美に軍す。十一月，胡騎數千は，大風に因りて放火して營を燒かんと欲し，將士は皆な恐れる。**既**は夜に精卒三千人を藏して伏と為し，參軍の**成公英**をして千餘騎を督して挑戰せ使め，敕して陽(いつわ)りて退かしめ。胡は果たして爭いて之に奔り，因って伏を發して其の後を截ち，首尾より進擊し，大いに之を破り，斬首獲生は萬を以て數え，河西は悉く平らぐ。

■［張既は懐柔策で麴光を打つ］後に西平の**麴光**は反し，其の郡守を殺す。諸將は之を擊たんと欲し，**既**は曰く、

「唯だ**光**等のみ反を造る，郡人は未だ必ずしも悉く同じならず。若し便ち軍を以て之に臨めば，吏民、羌、胡は必ず國家は是非を別たずと謂い，更に皆な相い持著せ使む，此れ虎に翼を傅けると為す也。**光**等は羌、胡を以て援と為さんと欲す，今先ず羌、胡をして鈔擊せ使め，其の賞募を重くし，虜獲する所の者は，皆な以て之に畀(あた)えん。外に其の勢いを沮み，內に其の交わりを離せば，必ず戰わず而して定まらん。」

乃ち檄を移して諸羌に告諭して為す、

「**光**等に詿誤(かいご)する所の者は之を原し，能く賊帥を斬りて首を送る者は當に封賞を加えるべし。」

是に於いて**光**の部黨は斬りて**光**の首を送る，其の餘は皆な安堵して故の如し。

呉■［呉は久しく下らず］**邢貞**は呉に至り，呉人は以為えらく、

「宜しく上將軍、九州伯（王制に九州は天子の畿內と八州に八伯あり）と稱すべし、當に魏の封を受けざるべし」

。**(4-241p) 吳王**は曰く、

「九州伯は，古に於いて未だ聞かざる也。昔**沛公**も亦た**項羽**の封を受けて**漢王**と為る，蓋し時の宜しき耳，復た何の損ある邪！」

遂に之を受ける。**吳王**は都亭に出でて邢貞を候ち，**貞**は門に入り，下車せず。**張昭**は**貞**に謂って曰く、

「夫れ禮は敬せざる無く，法は行わざる無し。而るに君は敢えて自ら尊大なり，豈に江南は寡弱にして，方寸之刃無きを以ての故なる乎！」

**貞**は即ち遽(にわか)に下車す。中郎將の琅邪の**徐盛**は忿憤し，顧みて同列に謂って曰く、

「**盛**等は奮身して命を出し，國家の為に許、洛を並せ，巴、蜀を呑む能わず，而して吾が君をして**貞**と盟わ令む，亦た辱ならず乎！」

因りて涕泣して橫に流れる。**貞**は之を聞き，其の徒に謂って曰く、

「江東の將相は此くの如し，久しく人に下る者に非ざる也。」

呉■［呉の人材は車載すほどあり］**吳王**(or 呉主)は中大夫の南陽の**趙咨**を遣わして入りて謝せしむ。**帝**は問いて曰く、

「**吳王**は何等の主なる也？」

對えて曰く、

「聰明にして、仁智、雄略之主也。」

**帝**は其の狀を問い，對えて曰く、

「**魯肅**を凡品より納れるは，是れ其の聰也。**呂蒙**を行陳より拔く，是れ其の明也。**于禁**を獲て而して害せず，是れ其の仁也。荊州を取りて兵は刃に血ぬらず，是れ其の智也。三州（荊州・揚州・交州）に據りて天下に虎視す，是れ其の雄也。身を**陛下**に屈す，是れ其の略也。」

**帝**は曰く、

「**吳王**は頗る學を知る乎？」

**咨**は曰く、
「**吳王**は江に浮かべること萬艘，帶甲は百萬なり，賢に任じ能を使い，志は經略に存す，餘閒有り，博く書傳を覽じ，史籍を歷り，奇異を采ると雖も，書生が章を尋ね句を摘むに效わず而して已む。」
**帝**は曰く、
「吳は征す可くや否や？」
對えて曰く、
「大國には征伐之兵有り，小國には備御之固め有り。」
**帝**は曰く、
「吳は魏を難とする乎？」
對えて曰く、
「帶甲は百萬，江、漢を池と為す，何の之を難とする有！」
**帝**は曰く、
「吳には大夫の如き者は幾人あるや？」
對えて曰く、
「聰明の特に達する者は，八九十人あり。臣之比の如きは，車に載せて斗を量り，勝げて數える可からず。」
■吳［吳は魏に珍宝を与える］**帝**は遣使して雀頭香（本草に、香附子を以て雀頭香と為す）、大貝、明珠、象牙、犀角、玳瑁、孔雀、翡翠、鬥鴨、長鳴雞（鳴声長き鶏）を吳に求めしむ。吳の群臣は曰く、
「荊、揚二州，貢に常典有り。魏の求める所の珍玩之物は，非禮也，宜しく與える勿かれ。」
**吳王**は曰く、
「方に西北に事（蜀と相禦ぐ）有り，江表の元元は，主を恃みて命と為す。彼が求める所の者は，我に於いては瓦石耳，孤は何ぞ惜しむ焉！且つ彼は諒闇之中に在り，而るに求める所此くの若し，寧んぞ與に禮を言う可けん哉！」
皆な具えて以て之を與える。
吳［孫登の四友］**吳王**は其の子の**登**を以て**太子**と為し，師友を妙選し，南郡太守の**諸葛瑾**之子の**恪**、綏遠將軍の**張昭**之子の**休**、大理の吳郡の**顧雍**之子の**譚**、偏將軍の廬江の**陳武**之子の**表**を以て皆な中庶子と為し，入りては詩書を講じ，出でては騎射に從わしめ，之を四友と謂う。**登**は僚屬を接待するに，略ぼ布衣之禮を用いる。

■十二月，**帝**は行きて東巡す。(4-242p)
■［孫登の萬戶侯を辭す］**帝**は**吳王**の子の**登**を封じて萬戶侯と為さんと欲す，**吳王**は**登**の年幼きを以て，上書して辭して受けず。復た西曹掾の吳郡(or 吳興)の**沈珩**を遣わして入りて謝せしめ，並せて方物を獻じる。**帝**は問いて曰く、
「吳は魏の東に向うを嫌う乎？」
**珩**は曰く、
「嫌わず。」
曰く、
「何を以てや？」

曰く、
「信(まこと)に舊盟を恃み，言に好みに歸す，是れ以て嫌わず。若し魏が盟を渝(か)うとも，自ら豫備有り。」
又た問う、
「聞く**太子**は當に來たるべし，寧ろ然る乎？」
**珩**は曰く、
「臣は東朝（呉）に在り，朝に坐さず，宴を與にせず，此くの若き之議は，聞く所無き也。」
**帝**は之を善しとす。
呉［張昭は孫権の飲酒を窘める］**吳王**は武昌の臨釣臺にて飲酒し，大いに醉い，人をして水を以て群臣に灑(そそ)が使めて曰く、
「今日は酣飲し，惟だ醉いて台中より墮つ，乃ち當に止むべき耳！」
**張昭**は色を正して言わず，外に出，車中に坐す。**王**は人を遣わして**昭**を呼び還り入らしめ，謂って曰く、
「共に樂しみを作さんが為なる耳，公は何為れぞ怒る乎？」
**昭**は對えて曰く、
「昔**紂**は糟丘酒池（酒粕の丘、酒の池を作る），長夜之飲を為す，當時も亦た以て樂（×榮）しみと為し，以て惡と為さざる也。」
**王**は默然として慚じ，遂に酒を罷める。
呉［酒後に人を殺さず］**吳王**は群臣と飲み，自ら起ちて酒を行う。**虞翻**は地に伏し，陽りて醉いて持せず。**王**は去り，**翻**は起ちて坐す。**王**は大いに怒り，手ずから劍で之を擊たんと欲し，侍坐する者は惶遽せざるは莫し。惟だ大司農の**劉基**は起ちて**王**を抱き，諫めて曰く、
「**大王**は三爵（古には臣は君の宴に侍する時は、三爵に過ぎず、其の節を失うを懼れる）之後を以て，手ずから善士を殺せば，**翻**が罪有りと雖も，天下は孰か之を知らん！且つ**大王**は能く賢を容れ衆を蓄えるを以て，故に海內は風を望む。今一朝之を棄てるは，可なる乎！」
**王**は曰く、
「**曹孟德**すら尚ほ**孔文舉**を殺す（65 巻漢獻帝建安 13 年にあり），孤は**虞翻**に於いて何か有らん哉！」
**基**は曰く、
「**孟德**は輕々しく士人を害し，天下は之を非とす。**大王**は躬ずから德義を行い，**堯**、**舜**と隆を比せんと欲す，何ぞ自ら彼に喻えるを得ん乎？」
**翻**は是に由りて免かるるを得たり。**王**は因りて左右に敕す、
「自今酒後に殺せと言うとも，皆な殺すを得ず。」
**基**は，**緜**（孫権に襲われ走りて死す）之子なり。

■［鮮卑の軻比能の脅威］初め，**太祖**は既に**踢頓**(とうとん)（65 巻漢獻帝建安 12 年のあり）に克ち，而して烏桓は浸(ようや)く衰え，鮮卑の大人の**步度根**、**軻比能**、**素利**、**彌加**、**厥機**等は閤柔に因りて貢獻を上り，通市（交易）を求む，**太祖**は皆な表寵して以て王と為す。**軻比能**は本は小種の鮮卑なり，勇健廉平なるを以て衆の服する所と為り，是に由りて能く餘部（続は諸部）を威制し，最も強盛と為す。雲中、五原より以東は遼水に抵るまで，皆な鮮卑の庭と為り，**軻比能**は**素利**、**彌加**と地を割きて統御し，各々分界有り。**軻比能**の部落は塞に近く，中國人は多く亡叛して之に歸す。**素利**等は遼西、右北平、漁陽の塞外に在り，道は遠く，故に邊患と為さず。**(4-243p) 帝**は平虜校尉の**牽招**を以て護鮮卑校尉と為し，南陽太守の**田豫**を護烏桓校尉と為し，

之を鎮撫せ使む。

## 文帝三年（壬寅，２２２年）

■春，正月，丙寅（2-2+1=1 日）朔，日に之を食する有り。
■庚午（6-2+1=５日），**帝**は行きて許昌に如く。
■詔して曰く、
「今之計（上計吏）、孝（孝廉）は，古之貢士也。若し年を限りて然る後に士を取れば，是れ**呂尚**（年 80 余にして文王は師とする）、**周晉**（周の太子晉、少くして令名あり）は前世に於いて顯われざる也。其れ郡國に令して選ぶ所は，老幼に拘る勿かれ。儒は經術に通じ，吏は文法に達するは，到れば皆な試みに用いるべし。有司は故（ことさ）らに實を以てせざる者を糾せよ。」
■［西域との通行復帰］二月，鄯善、龜茲、于闐の王は各々遣使して奉獻す。是の後に西域は復た通じ，戊己校尉を置く。（漢の車師の屯田ほどには西域を支配できなかった）

蜀［劉備は山に縁りて呉を攻める］**漢主**は秭歸より將に進みて呉を擊たんとし，治中從事の**黃權**は諫めて曰く、
「呉人は戰いに悍にして，而して水軍は流れに沿い，進むは易く退くは難し。臣は請う先驅と為りて以て寇に當たらん，**陛下**は宜しく後鎮と為るべし。」
**漢主**は從わず，**權**を以て鎮北將軍と為し，江北の諸軍を督せ使む。自ら諸將を率い，江南より山に緣りて嶺（続は領）を截ち，夷道（210 年宜都郡の県、湖北省荊南道宜都県西北、現・宜昌市夷陵区）の猇亭（宜都県の西、虎脳背市）に軍す。呉將は皆な之を迎擊せんと欲す。**陸遜**は曰く、
「**備**は軍を舉げて東下す，銳氣は始め盛んなり、且つ高きに乘り險を守る，卒に攻む可きは難し。之を攻めて縱え下すとも，猶ほ盡く克つは難し，若し不利有れば，我が太勢を損す，小故に非ざる也。今は但だ且く將士を獎厲し，廣く方略を施し，以て其の變を觀るべし。若し此の間是れ平原曠野ならば，當に顛沛して交々逐う之憂い有るを恐れるべし。今山に緣りて行軍す，勢いは展べるを得ず，自ら當に木石之間に罷むべし，徐ろに其の敝を制する耳。」
諸將は解せず，以為らく**遜**は之を畏れると，各々憤恨を懷く。
蜀漢人は佷山（宜都郡の県、湖北省荊南道長陽県、現・宜昌市長陽土家族（とうちゃ）自治県の西北）より武陵（現・湖南省常徳市武陵区）に通じ，侍中の襄陽の**馬良**をして金錦を以て五谿の諸蠻夷に賜わり，授けるに官爵を以てせ使む。

■三月，乙丑（1-1+1=１日），皇子の**齊公叡**を立てて平原王と為し、皇弟の鄢陵公の**彰**等を皆な爵を進めてを王と為す。甲戌（10-1+1=１０日），皇子の**霖**を立てて河東王と為す。
■甲午（30-1+1=３０日、元嘉曆では４月１日），**帝**は行きて襄邑に如く。
■［同族諸侯の冷遇、匹夫に等し］夏，四月，戊申（44-30+1=１５日、元嘉曆），鄄城侯の**植**を立てて鄄城王と為す。是の時，諸侯王は皆な寄地空名に而して其の實無し。王國は各々老兵百餘人有りて以て守衛と為す。千里之外に隔絕し，朝聘を聽さず，**(4-244p)** 為に防輔（謀反を禦ぎ輔す）監國之官を設け以て之を伺察す。王侯之號有りと雖も而して匹夫に儕（ひと）し，皆な布衣と為らんと思えども而して得る能わず。法は既に峻切にして，諸侯王は過惡は日々に聞こゆ。獨り北海王の**兗**は謹慎にして學を好み，未だ嘗て失有らず。

文學（王国の官名、師友と文學各一人を置く）、防輔は相い與に言って曰く、
「詔を受けて王の舉措を察す，過有れば當に奏すべく，善有るに及びては亦た宜しく以て聞すべし。」
遂に共に表して**兗**の美を稱陳す。**兗**は之を聞き，大いに驚き懼れ，文學を責讓して曰く、
「身を修めて自ら守るは，常人之行なる耳，而るに諸君は乃ち以て上聞す，是れ適に其の負累を增す所以也。且つ如し善有れば，何ぞ聞こえざるを患えん，而るに遽に共に是くの如きは，是れ益を為す所以に非ざる也。」
■癸亥（59-30+1=３０日、元嘉暦），**帝**は許昌に還る。
■五月，江南の八郡を以て荊州と為し，江北の諸郡を郢州と為す。（孫権を荊州牧としたので郢州を置く）

## 【劉備は白帝城に敗走】

蜀［劉備は營を列ねる］漢人は巫峽建平より營を連ねて夷陵の界に至り，數十屯を立て，**馮習**を以て大督と為し，**張南**を前部督と為し，正月より吳と相い拒ぎ，六月に至りて決せず。**漢主**は**吳班**を遣わし數千人を將いて平地に於いて營を立てしめ，吳の將帥は皆な之を擊たんと欲し，**陸遜**は曰く、
「此れ必ず譎有り，且く之を觀るべし。」
**漢主**は其の計の行われざるを知り，乃ち伏兵八千を引いて谷中より出でる。**遜**は曰く、
「諸君に班を擊つを聽さざる所以の者は，之に必ず巧有るを揣りし故也。」
**遜**は**吳王**に上疏して曰く、
「夷陵は要害なり，國之關限なり，得るに易しと為すと雖も，亦た復た失い易し。之を失えば，徒に一郡之地を損するに非ず，荊州は憂う可し，今日之を爭えば，當に必ず諧わ（事の成就）令むべし。**備**は天常を干し，窟穴を守らず而して敢えて自ら送る（出兵），臣は不材なりと雖も，威靈を憑奉し，順を以て逆を討ち，破壞するは近くに在り，憂う可き者無し。臣は初め之を嫌い水陸は俱に進む，今反って船を捨てて步に就き，處處に營を結び，其の佈置を察するに，必ず他變無し。伏して願わくは**至尊**は枕を高くし，以て念と為さざる也。」
蜀 吳［陸遜は劉備を破る］閏月（閏六月、續による、元嘉暦七月），**遜**は將に進みて漢軍を攻めんとし，諸將は並びて曰く、
「**備**を攻めるは當に初めに在るべし，今は乃ち入ら令むること五六百里，相い守ること七八月を經て，其の諸々の要害は皆な已に固く守る，之を擊つは必ず利無し矣。」
**遜**は曰く、
「**備**は是れ猾き虜にして，更に嘗て事多し，其の軍始めて集まり，思慮は精專にして，未だ干す可からざる也。今住まること已に久しく，我が便を得ず，兵は疲れ意は沮み，計は復た生じず。此の寇を掎角するは，正に今日に在り。」
乃ち先ず一營を攻め，利あらず，諸將は皆な曰く、
「空しく兵を殺す耳！」
**遜**は曰く、
「吾は已に之を破る之術を曉る。」
乃ち敕して各々一把の茅を持ち，火を以て攻め，之を拔く。一たび爾にして勢いは成り，通じて諸軍を率い，同時に俱に攻め，**張南**、**馮習**及び胡王の**沙摩柯**等の首を斬り，（4-245p）其の四十餘營を破る。漢將の**杜路**、**劉寧**等は窮逼して降を請う。

蜀 呉［劉備は敗れ白帝に逃げ込む］**漢主**は馬鞍山（夷陵にあり）に升り，兵を陳べて自ら繞(めぐ)らす，**遜**は諸軍を督促し，四面から之を蹙(せま)り，土崩瓦解し，死者は萬を數える。**漢主**は夜遁げ，驛人は自ら擔いて鐃鎧を燒き後を斷ち（劉備は夷陵に入るに際して道に沿いて駅を置き、白帝に達す。敗れるに駅人は棄てられた鐃鎧を焼いて後を断った），僅かに白帝城に入るを得，其の舟船、器械，水、歩軍資は，一時に略ぼ盡き，尸骸は江を塞ぎ而して下る。**漢主**は大いに慚じ恚(いか)りて曰く、

「吾は乃ち**陸遜**の折辱する所と為るは，豈に天に非ず耶！」（胡氏曰く、險に依りて兵を行り、其の衝を扼し、情見われ勢屈し。敵は其の懈に乘じ、師を失うに至る、此れ天に非ざる也と）

將軍の義陽の**傅肜**は後殿（しんがり）と為り，兵衆は盡く死し，**肜**の氣は益々烈し。吳人は之を諭して降ら使めんとし，**肜**は罵りて曰く、

「吳の狗，安んぞ漢の將軍の而して降る者有るや！」

遂に之に死す。從事祭酒（諸從事の長）の**程畿**は江に溯り而して退き，衆は曰く、

「後追（追尾軍）は將に至らんとす，宜しく舫（両船を並べる、もやい船）を解きて輕行すべし。」

**畿**は曰く、

「吾は軍に在り，未だ敵の為之走るを習わざる也。」

亦た之に死す。

蜀 呉［陸遜の計略冴えたり］初め，吳の安東中郎將の**孫桓**は別に漢の前鋒を夷道に擊ち，漢の圍む所と為り，救いを**陸遜**に求め，**遜**は曰く、

「未だ可ならず。」

諸將は曰く、

「**孫**安東は，公族なり，圍ま見れ已に困しむ，奈何して救わざるや！」

**遜**は曰く、

「安東は士衆の心を得，城は牢(かた)く糧は足る，憂う可き無き也。吾が計の展べるを待ち，安東を救わざらんと欲すも，安東は自ら解けん。」

方略大いに施すに及びて，漢は果たして奔潰す。**桓**は後に**遜**を見て曰く、

「前に實に救われざるを怨見む。定まり今日に至り，乃ち調度自ら方有るを知る耳！」

呉［陸遜は諸将の聽從に苦慮］初め，**遜**は大都督と為り，諸將は或は討逆（孫策）の時の舊將，或は公室の貴戚にして，各々自ら矜恃(or 矜持)し，相い聽從せず。**遜**は劍を按じて曰く、

「**劉備**は天下名を知り，**曹操**の憚る所なり，今境界に在り，此れ強對（強敵）也。諸君は並びに國恩を荷なう，當に相い輯睦し，共に此の虜を翦り，上の受ける所に報いるべし，而るに相い順わざるは，何ぞ也？僕は書生と雖も，命を**主上**に受け，國家の諸君を屈して相い承望せ使む所以の者は，僕が尺寸の稱す可く，能く辱を忍びて（能く諸將を容れる）重きを負うを以ての故也。各々其の事に任（續による、在?）ず，豈に復た辭するを得るや！軍令（將に軍法を行わんとす）は常に有り，犯す可からざる也！」

**備**を破るに至るに及びて，計は多く**遜**に出，諸將は乃ち服す。**吳王**は之を聞きて曰く、

「公は何を以て初めに諸將の節度に違える者を啟せざる邪？」

對えて曰く、

「（臣が）恩を受けること深重なり，此の諸將は或は腹心に任じ，或は爪牙に堪え，或は是れ功臣なり，皆な國家の當に與に共に大事を克定する所の者なり，臣は竊に**相如**（4 卷周の赧王 36 年にあり）、**寇恂**（40 卷漢光武建武 2 年にあり）の相い下る之義を慕い以て國事を濟さんとす。」

王は大いに笑い善しと稱し (4-246p)，遜に輔國將軍を加え，荊州牧を領せしめ，改めて江陵侯に封じる。

蜀［諸葛亮は法正の居ないのを悔やむ］初め，諸葛亮は尚書令の法正と好尚同じからず，而るに公義を以て相い取り，亮は毎に正の智術を奇とする。漢主の吳を伐ち而して敗れるに及びて，時に正は已に卒す，亮は歎じて曰く、

「孝直（法正の字）若し在れば，必ず能く主上の東に行くを制せん。就使東に行くとも，必ず危に傾かざる矣。」

漢主は白帝に在り，徐盛、潘璋、宋謙等は各々競いて表言す、

「備は必ず禽となる可し，乞う復た之を攻めん。」

吳王（続は吳主）は以て陸遜に問い。遜は朱然、駱統と上言して曰く、

「曹丕は大いに士衆を合わせ，外に國を助けて備を討つに托し，內に實は奸心有り，謹んで計を決して輒ち還らん。」（曹丕が関羽を追わないのと、陸遜が劉備を追わないのは同じ理屈）

■［曹丕は劉備の敗れるを予測］初め，帝は漢兵の柵を樹て營を七百餘里連ねると聞き，群臣に謂って曰く、

「備は兵を曉らず，豈に七百里の營の以て敵を拒ぐ可き者有らん乎！『原隰險阻を苞ねて而して軍を為す者は敵の禽とする所と為る』，此の兵は忌む也。孫權の上事（上奏して兵事を言うを謂う）は今至らん矣。」

後七日にして，吳は漢を破るの書到る。

■秋，七月（元嘉曆八月），冀州は大いに蝗し，饑える。

蜀■［黃權は魏に降る］漢主は既に敗走し，黃權は江北に在り，道は絕え，還るを得ず，八月，其の衆を率いて來降す。漢の有司は權の妻子を收めるを請い，漢主は曰く、

「孤は黃權に負く（黃權の意見を聞かず），權は孤に負かざる也。」

之を待つこと初めの如し。帝は權に謂って曰く、

「君は逆を捨て順に效い，蹤を陳（陳平）、韓（韓信）に追わんと欲す邪？」

對えて曰く、

「臣は過ちて劉主の殊遇を受け，吳に降るは不可なり，蜀に還るに路無し，是を以て命を歸す。且つ敗軍之將は，死を免るるを幸と為す，何ぞ古人を之れ慕う可き也！」

帝は之を善しとし，拜して鎮南將軍と為し，育陽侯（今後侯でも封邑無し）に封じ，侍中を加え，陪乘せ使む。

漢(or 蜀)の降人は或は云わく、

「漢は權の妻子を誅す」

帝は權に詔して喪を發せしむ。權は曰く、

「臣は劉（劉備）、葛（諸葛亮）と誠を推して相い信じ，臣の本志を明らかにする。竊に疑うに未だ實ならず，請う須たん。」

後に審問を得，果たして言う所の如し。馬良も亦た五谿に死す。

■［卞太后の外親を用いず］九月（元嘉曆十月），甲午（30-27+1=４日），詔して曰く、

「夫れ婦人の政に與するは，亂れ之本也。今より以後，群臣は事を太后に奏するを得ず，后族之家は輔政之任に當るを得ず，又た橫しまに茅士之爵を受けるを得ず。此の詔を以て之を後世に傳えるべし，若し背

違する有れば，天下は共に之を誅すべし。」
**卞太后**は外親を見る毎に，假すに顔色を以てせず，常に言う、
「居處は當に節儉すべし，當に賞を望み，自ら佚せんを念うべからざる也。**(4-247p)** 外捨（后妃は其の外家を謂う）は當に吾が之を遇するに太いに薄きを怪しむべし，吾は自ら常度有るが故也。吾は**武帝**に事えること四五十年，儉を行うこと日久し，自ら變じて奢を為す能わず。科禁を犯す者有れば，吾は且つ能く罪一等を加える耳，錢米の恩貸を望む莫かれ也。」

■［皇后の郭氏を立てる是非］**帝**は將に**郭貴嬪**を立てて**后**と為さんとし，中郎（続は中將）の**棧潛**は上疏して曰く、
「夫れ**后**妃之德は，盛衰治亂の由りて生ずる所也。是れを以て聖哲は慎みて元妃を立て，必ず先代の世族之家に取り，其の令淑を擇び，以て六宮を統べ，虔みて宗廟に奉ず。《易》に曰く、『家道正しく而して天下は定まる。』內より外に及ぶは，**先王**之令典也。《春秋》に書す、宗人の**夷夏**（春秋襄公 24 年にあり）は云わく『妾を以て夫人と為す之禮無し。』齊の**桓**（孟子告子篇にあり）は葵丘に誓命し，亦た曰く、『妾を以て妻と為す無し。』今（続による、令×）後宮の嬖寵，常に乘輿に亞す，若し愛に因りて**后**に登せられば，賤人をして暴（にわか）に貴から使めば，臣は恐るに後世下陵（しの）ぎ上替わり，非度を開張し，亂は自ら上起す。」
**帝**は從わず。庚子（36-27+1=１０日），皇后の**郭氏**を立てる。

呉■［曹丕は呉王を心服させられず、任子至らず］初め，**呉王**は**于禁**の護軍の**浩周**、軍司馬の**東里袞**を遣わして**帝**に詣り，自ら誠款を陳べしむ，辭は甚だ恭慤なり。**帝**は**周**等に問う、
「**權**は信ずる可き乎？」
**周**は以為く、
「**權**は必ず臣服せん」
と，而して**袞**は其の必ずしも服す可からざるを謂う。**帝**は**周**の言を悦び，以為らく以て之を知る有りと，故に立てて**呉王**と為し，復た**周**をして呉に至ら使む。**周**は**呉王**に謂って曰く、
「**陛下**は未だ**王**を信じず、子を遣わして入りて侍せしめよ，**周**は闔門（一族）の百口を以て之を明らかにせん。」
**呉王**は之が為に流涕して襟を沾（うるお）し，天を指して誓いと為す。**周**は（魏に）還り而して侍子は至らず，但だ多く虚辭を設けるのみ。**帝**は侍中の**辛毗**、尚書の**桓階**を遣わし往きて與に盟誓し，並せて任子を責めんと欲し，**呉王**は辭讓して受けず。**帝**は怒り，之を伐たんと欲す，**劉曄**は曰く、
「彼は新たに志を得，上下は心を齊（ひと）しくし，而して江湖を阻帶す，倉卒に制す可からざる也。」
**帝**は從わず。

■呉［魏は呉に全面侵攻］九月（元嘉暦十月），征東大將軍の**曹休**、前將軍の**張遼**、鎮東將軍の**臧霸**に命じて洞口（安徽省安慶道和県、現・馬鞍山市和県）を出でしめ，大將軍の**曹仁**をして濡須を出でしめ，上軍大將軍の**曹真**、征南大將軍の**夏侯尚**、左將軍の**張郃**、右將軍の**徐晃**に南郡を圍ましむ。呉の建威將軍の**呂範**は五軍を督し，舟軍を以て**休**等を拒み，左將軍の**諸葛瑾**、平北將軍の**潘璋**、將軍の**楊粲**に南郡を救い，裨將軍の**朱桓**は濡須の督を以て**曹仁**を拒む。
■［魏の薄葬令、寿陵を作る］冬，十月（元嘉暦十月閏月），甲子（0+60-57+1=４日），首陽山（洛陽の東北）の

東を表して壽陵と為し，終制を作り，務めて儉薄に従い，(4-248p) 金玉を藏せず，一に瓦器を用いしむ。此の詔を以て之を宗廟に藏せ令め，副は尚書、秘書、三府（三公の府）に在り。

呉［呉は孫登を魏に送る］**呉王**は揚越の蠻夷が多く未だ平集せざるを以て，乃ち辭を卑くして上書し，自ら改厲するを求め、

「若し罪の除き難きに在り，必ず置か見れざれば，當に土地民人を奉還し，命を交州に寄せ以て餘年を終えるべし。」

又た**浩周**に書を與えて云く、

「子の**登**の為に昏（婚姻）を宗室に求めんと欲す。」

又た云わく、

「**登**の年弱きを以て，**孫長緒**（孫邵）、**張子布**を遣わして**登**に隨いて俱に來たらしめんと欲す。」

**帝**は報じて曰く、

「**朕**之君とは，大義は已に定まり，豈に師を勞して遠く江、漢に臨むを樂しまんや！若し**登**の身が朝に到れば，夕には兵を召して還らん耳。」

是に於いて**呉王**は黃武と改元し，江に臨みて拒み守る。

■［魏も南下を企む］**帝**は許昌より南征し，（呉は）郢州を復して荊州と為す。十一月，辛丑（37-27+1=１１日），**帝**は宛に如く。**曹休**は洞口に在り，自ら陳ず、

「願わくは鋭卒を將いて江南に虎歩し，敵に因りて資を取れば，事は必ず克捷せん，若し其の臣無くとも，念と為すを須たず。」

**帝**は**休**が便ち江を渡らんとするを恐れ，驛馬にて之を止む。侍中の**董昭**は侍側して，曰く、

「竊に見るに**陛下**は憂色有り，獨り**休**が江を濟るを以ての故なる乎？今者江を渡るは，人情の難き所，就い**休**に此の志有るとも，勢は獨り行かず，當に諸將を須つべし。**臧霸**等は既に富み且つ貴し，復た他の望無く，但だ其の天年を終え，祿祚を保守せんと欲する而して已む，何の肯て危に乘りて自ら死地に投じ以て徼倖するを求めんや！苟くも**霸**等が進まざれば，**休**の意は自ら沮まん。臣は恐らくは**陛下**は渡るを敕する之詔有りと雖も，猶ほ必ず沉吟し，未だ便ち命に從わざらん也。」

之頃して，會々暴風は呉の**呂範**等の船を吹き，絙纜（船の繫留綱）は悉く斷え，直に**休**等の營下に詣る，斬首獲生は千を以て數え，呉兵は迸散す。**帝**は之を聞き，諸軍に敕して渡るを促し。軍未だ時に進まず，呉の救船は遂に至り，軍を收めて江南に還る。**曹休**は臧霸をして之を追わ使めるも，利あらず，將軍の**尹盧**は戰死す。

■（十二月）庚申（56-56+1=１日）晦，之を食する有り。

呉**呉王**は太中大夫の**鄭泉**をして漢に聘せ使む，漢の太中大夫の**宗瑋**は之を報じ，呉、漢は復た通じる。

蜀**漢主**は魏師の大いに出るを聞き，**陸遜**に書を遺りて曰く、

「賊は今已に江、漢（呉志陸遜傳は江陵）に在り，吾は將に復た東せんとす，將軍は謂うに其の能く然るや否や？」

**遜**は答えて曰く、

「但だ（漢の）軍が新たに破れ，創夷の未だ復せずして，始めて通親を求めるを恐れる。且く當に自ら補い，未だ兵を窮めるの暇あらざる耳。若し推算せず，復た傾覆之餘を以て遠く送りて以て來たらんと欲する

者ならば，**(4-249p)** 命を逃げる所無し。」

**蜀**漢の漢嘉（四川省建昌道雅安県の北、現・雅安市雨城区近辺）太守の**黄元**は叛す。**(4-249p)**

**呉**呉将の**孫盛**は萬人を督して江陵（湖北省荊南道江陵県、現・荊州市江陵県）の中洲（百里州）に據り，以て南郡の外援と為す。

校刊記（中華書院版の注釈）

北〔謂〕(為)南為島夷　據章校及前文改。

雖華〔夷〕(夏)仁暴　據章校改。

故不得不取魏〔晉〕宋齊梁陳後梁後唐後晉後漢後周年號　據胡注補。

吳之亡不出旬〔月〕(日)矣　據章校及《魏志．劉曄傳》改。

吳〔王〕(主)遣中大夫南陽趙咨入謝　據章校改。

復遣西曹掾吳〔郡〕(興)沈珩入謝　據章校及《吳志．孫權傳》注引韋昭《吳書》改。

各自矜〔恃〕(持)　據章校及《吳志．陸遜傳》改。

〔漢〕(蜀)降人或云漢誅權妻子　此處司馬光未改「蜀」為「漢」，逕改。

吳王使太中大夫鄭泉聘於漢句　按據方北辰《三國志蜀書札記》考証，主動求和並先遣使者者是劉備，而非孫權在先。《蜀志．先主傳》章武二年（222）云：「冬十月，孫權聞先主住白帝，甚懼，遣使求和。先主許之，遣太中大夫宗瑋報命。」《吳志．孫權傳》黃武元年（222）云：「十二月，權使太中大夫鄭泉聘劉備于白帝，始復通也。」以上所引的《先主傳》、《吳主傳》兩段史文相比較，就會發現問題：劉備派遣宗瑋，時在冬十月；孫權派遣鄭泉，時為冬十二月。也就是，宗瑋東下在先，鄭泉西上在後，其間有兩月之差。既然宗瑋東下在先，自然求和的主動者便應當是劉備，而非孫權。司馬光綜合《先主傳》及《吳主傳》史文，卻未察覺宗瑋先于鄭泉兩月前往孫吳，致使次第出現顛倒。

令和 4 年 4 月 4 日　　和訳開始　原文 12946 文字

令和 4 年 5 月 7 日　　和訳終了　　25325 文字